

# 「CROSS Orange BAR ニンチショウ」イベント実施報告書

## ■日時：2025年12月5日（金）

第一部：午後1時～午後3時／第二部：午後5時～午後8時

## ■会場：CROSS B PLUS 仙台市青葉区大町 1-1-30

■目的：認知症基本法に基づく「新しい認知症観」の普及啓発にあたり、従来の福祉的アプローチだけではなく、意外性のあるチャンネルによる普及啓発を図るとともに、認知症の人やその家族等からの意見聴取を実施し、宮城県認知症施策推進計画策定における「本人参画」に取り組むこと。

## ■登壇者

・「みやぎ認知症応援大使」の皆さん

第一部：遠藤実さん、鈴木正勝さん／第二部：安積信政さん、丹野智文さん

・大使支援者の皆さん

第一部：遠藤麻由美さん、柴田錬磨さん(医療法人社団 清山会)

第二部：宮城県 若年性認知症支援コーディネーター 川井丈弘さん(医療法人社団 清山会)

認知症の人と家族の会 宮城県支部 代表 若生栄子さん

・司会：若林翔子さん（タレント）

## ■プログラム内容

・第一部

(1) オープニング・登壇者紹介

(2) トークセッション テーマ「認知症×家族」

みやぎ認知症応援大使 遠藤実さん 支援者：遠藤麻由美さん

みやぎ認知症応援大使 鈴木正勝さん 支援者：柴田錬磨さん(医療法人社団 清山会)

(3) ワールドカフェ テーマ：「お酒」、「家族」

(4) 参加者同士がテーブルごとに歓談

・第二部

(1) オープニング・登壇者紹介

(2) トークセッション テーマ「認知症×仲間」

みやぎ認知症応援大使 安積信政さん 支援者：若生栄子さん(認知症の人と家族の会 宮城県支部 代表)

みやぎ認知症応援大使 丹野智文さん

(3) トークセッション テーマ「認知症×仕事」

丹野智文さん × 宮城県 若年性認知症支援コーディネーター 川井丈弘さん(医療法人社団 清山会)

(4) 参加者同士がテーブルごとに歓談

## ■事前申込数

第一部：36人(内訳…本人・家族：3人、支援者：10人、一般：23人)

第二部：27人(内訳…本人・家族：5人、支援者：5人、一般：17人)

■来場者数 第一部：28人 / 第二部：39人 ■アンケート回答数：24件 ※アンケート結果は別紙

## ■報道取材

新聞：読売新聞…12月8日(月)朝刊県内版に記事掲載、

テレビ：仙台放送、ミヤギテレビ…いずれも12月5日(金)夕方ニュースで放送

## ■当日の様子

### ・会場装飾

会場内の大型モニターにイベントロゴ・タイトルを常時投影し、歓談時間や第一部と第二部の間の時間などは大使紹介動画・これまでの活動のライドショーを投影した。他、屋外に向けた柱付きモニター、受付・レジそばの天吊りモニターにもイベントロゴを表示し一体感を持たせた。



### ・第一部

トークセッションでは「認知症×家族」をテーマに、家族の理解について、家族に安心してもらうための生活の工夫について自分で決めることの重要性などについて、みやぎ認知症応援大使に話を伺った。

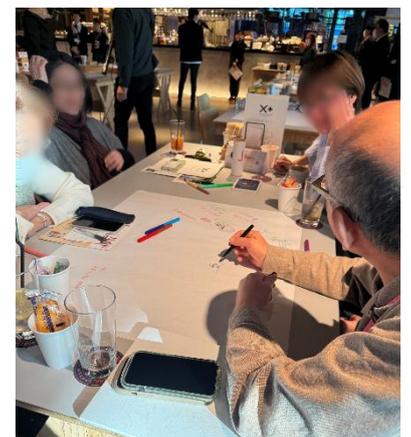
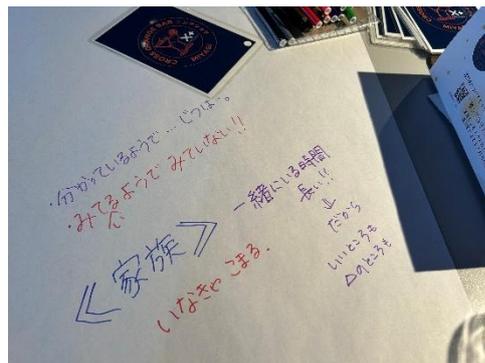
ほか、ワールドカフェ形式で「お酒」「家族」をテーマに、意見やエピソードの交換を促した。各テーブルに設置した模造紙とペンを使ってイラストで伝えたり、メモを取ったり思い思いに活用していただいた。

ワールドカフェの後は、大使らにも各テーブルを回ってもらいながら、テーブルごとに好きなテーマで会話を楽しんでもらった。

### ▼「乾杯」でスタート



▲模造紙も活用しながら参加者同士が交流▼



・第二部

トークセッションでは「認知症×仲間」をテーマに、診断当時の気持ちや、そこから立ち直るにあたり、仲間との出会いが大きな役割を果たしたことなどについて、みやぎ認知症応援大使に話を伺った。

また、第二部は夜の時間帯ということも加味し「認知症×仕事」をテーマに、認知症と診断されても働き続けている事例も交えながら、大使や宮城県若年性認知症支援コーディネーターにお話しいただいた。

その後は、大使らにも各テーブルを回ってもらいながら、テーブルごとに好きなテーマで会話を楽しんでもらった。お酒を片手に、普段あまり話す機会のない人同士が語らう様子が見られた。



20枚の「トークテーマカード」を作成し、各テーブルに配置。必要に応じて活用いただいた ▼

